

薩摩 広報 11 内

さつませんだい



March.2024
vol.466



市役所をもっと身近に



友だち
募集中



自治体広報紙配信
アプリ「マチイロ」
ダウンロード
はこちら





3月は引越しが多いシーズンです。僕の友人家族も本市へ引越してきました。そこで今回は、引越してきた方がどのような手続きが必要なのか、友人家族の手続きを例に案内します。

- 友人家族構成
- ・父
 - ・母
 - ・友人
 - ・友人妻(妊娠中)
 - ・長男(高校生)
 - ・長女(小学生)



まずは発券機へ!
市民課で手続きをする場合、まずは発券機で受付番号を取ろう。受付番号が呼ばれたら、窓口へ。市公式LINEで、市民課窓口の混雑状況や呼び出し状況を確認することができよう。待ち時間を有効活用できそう。チェックしてみてね。



▲広報薩摩川内2月通常版市公式LINEの便利な機能



▲市民課にある発券機



税務課

友人の長男は原動機付自転車へ通学するため、ナンバープレートの変更手続きが必要だよ。前の市町村役場で廃車手続きを行って、本市のナンバープレートを取得するための手続きをしてね。



- 必要なもの**
- ・身分証明書
 - ・前の市町村の廃車申告受付書

高齢・介護福祉課

今年で67歳になる友人の両親は、介護保険被保険者証の発行手続きが必要だよ。代理人による発行手続きも可能で、即日発行できるよ。同時に介護保険料についての説明もあるよ。また、窓口では引越前市の市町村で介護認定を受けていたかなどの聞き取りもあるよ。必要に応じて他の手続きの案内があるみたい。

- 必要なもの**
- ・身分証明書



▲高齢・介護福祉課の窓口



▲窓口対応の様子

市民課

引越してきたら、14日以内に市民課で住民登録やマイナンバーカードの券面記載事項変更手続きなどをしよう。ここで、国民健康保険の加入の有無や住民票が必要かどうかの聞き取りがあり、必要に応じて追加の手続きがあるみたい。

- 必要なもの**
- ・転出証明書(前の市町村で取得したもの)
 - ・身分証明書(マイナンバーカード、運転免許証など)
 - ※マイナンバーカードでも転出手続きを行うことができます。その場合は、マイナンバーカードが必要です。



知ってた? コンビニで取得できるんだって。

- コンビニで簡単に取得できる証明書はこちら。
- ・住民票の写し
 - ・印鑑登録証明書
 - ・戸籍全部(個人)事項証明書
 - ・所得課税証明書
- 詳しくは市ホームページで確認してね。



▲住民票の写しなどの証明書がコンビニで取得できます市ホームページ

子育て支援課

高校生と小学生の子どもがいる友人家族。子育て支援課で、児童手当と子ども医療費助成の手続きが必要だよ。手続きは転入予定日の翌日から15日以内に行ってね。

児童手当とは、中学校修了までの児童を養育している方に支給される手当のことです。(所得上限限度額があります)

- 必要なもの**
- ・世帯全員のマイナンバーが分かるもの
 - ・口座が分かるもの(生計中心者のもの)

子ども医療費助成とは、子ども(18歳になった以後の最初の3月31日まで)が医療機関を受診した際に、医療機関に支払った保険診療分の負担金について、償還払い方式により助成します。※市町村民税非課税世帯の子どもは、県内の医療機関に限り自己負担なしに受診できる子ども医療給付制度もあります。



▲子ども医療給付事業市ホームページ



- 必要なもの**
- ・子どもの健康保険被保険者証
 - ・子ども、保護者とその配偶者のマイナンバーが分かるもの
 - ・保護者名義の口座が分かるもの



▲児童手当市ホームページ



▲子ども医療費助成事業市ホームページ

出生届について

もうすぐ新しい家族が増える友人家族。子どもが生まれた日から14日以内に市民課に出生届を提出してね。(出生届は病院で受け取ることができるそう)

- 必要なもの**
- ・出生届
 - ・母子健康手帳
 - ・来庁者の方の身分証明書

出生届提出後、子育て支援課で児童手当と子ども医療費助成制度の手続きをするんだって。※18ページに市民課窓口の時間延長・休日窓口開設についてのお知らせを掲載しているよ。そちらもチェックしてね。



▲市民課の窓口

学校教育課

友人の長女は小学校を転校するので、市民課で学校教育課への案内があったみたい。転校や転入など学校に関することで分からないことがあったら、本庁5階の学校教育課に気軽に問い合わせてね。



▲新入学・住所変更に伴う転学関係、学校一覧・児童生徒数市ホームページ



総合案内

エレベーターを2階で降りると、正面に総合案内があるよ。「どここの課に行けばいいのかわからない」「自分が行きたい課はどこにあるのか」など、迷った時は総合案内で聞いてみてね。



人のとなりに

小原 麻貴さん



「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

人生の転機

生まれも育ちも東郷地域で、現在は、多くの市民が利用する「肥薩おれんじ鉄道(株)」で、信号通信担当として働く小原麻貴さん。

「8年前の子どもの誕生をきっかけに肥薩おれんじ鉄道に入社した。子どもと過ごす時間を大切にしたいだったので、人生を考え直す良いタイミングになった。また、何かに没頭する仕事があった」と言います。

信号通信に関して、どのような仕事をしているのか伺うと、「信号機や踏切、転てつ機(列車の通り道を切り替える装置)などの修理を行い、肥薩おれんじ鉄道が管轄する設備の管理を行っている」と教えてくれました。

人の命を守る「使命感」

地域住民の安全を裏で支える仕事。「電気設備に障害が起きたときには、昼夜問わず現場に向かい、障害を解決しなければならぬ」と言います。簡単に解決できない問題に向き合うときもあるそうで、作業する際には、原因を定めつけないということに気を付けているようです。

「解決パターンをいくつも考え、仲間と協力して解決できたときにやりがいを感じる。人の命を守るという『使命感』を持つ

て、日々の業務に取り組んでいられる」と言います。

これからの列車利用

少子高齢化が進み、人口減少が問題となっている今、利用者も年々減少傾向になっていて、現在は、学生の利用が主になっています。

「通勤や通学以外で、おれんじ鉄道を利用してもらえるようにもっと盛り上げていきたい」と言います。また、「おれんじ食堂サンセットと薩摩川内市バスツアー」と題して、ミニツアーを開催しました。このような形で地域の皆さんに楽しんでもらえるように、もっとおれんじ鉄道全体も盛り上げていきたい」と意気込みを話してくれました。

20周年を迎える

「これまでと変わらず、安全安心を維持することはもちろん、新しいやり方で、責任感を持ち、自分たちがおれんじ鉄道を引っ張っていきけるように頑張りたい」と話す小原さん。

「ソーシャルメディアをさらに活用して、若者世代へおれんじ鉄道の魅力を伝え、この会社で働いてみたいと思ってもらいたい」。まずは、知ってもらいたいことから始めていきたいそうです。

また、「今の職場では、薩摩川



▲上川内駅の駅名標の前で

内市在住の社員は自分一人なので、薩摩川内市に住む同僚も増やしていきたい」と、これからの目標も話してくれました。

お子さんと過ごす休日

休日は、お子さんとの時間を過ごす小原さん。

「小学2年生の長男は、自分が中学時代にしていたバスケットボールをしていて、一緒に練習するなど、子どもと過ごす時間を大切にしたい」という夢が叶って嬉しい。また、一緒に練習していると、子どもの成長を感じることができて嬉しい」と笑顔で話してくれました。

小原さんは、先輩や同僚たちと助け合いながら、これからも利用者へ安全安心を届けます。

深発見 歴史文化遺産

★つぎせんだい

第拾玖回 田の神さあ

傍らでそつと微笑む守り神

田んぼの脇や公園、公民館など、私たちの身近な場所に、何ともユーモラスな表情で微笑む「田の神さあ」。

田んぼを守り、豊穰や子孫繁栄をもたらす神として大切に祀られています。

田の神信仰は全国的に見られますが、石像など偶像化しているのは、鹿児島県と宮崎県の一部(江戸時代の旧薩摩藩領)のみです。

本市でも数多くの田の神さあが造られ、確認されているものだけでも400体程存在すると思われまます。

そんな中から、特徴的な「推し田の神さあ」を紙面の限りご紹介いたします。



▲令和4年6月号通常版の広報薩摩川内にて掲載しておりますので、ご覧ください。

自然石文字彫



- 高江町宝満神社付近 天明7年(1787)
- 「御田神」の銘あり

単体浮彫(線刻)



- 楠元町楠元下公民館付近 寛延元年(1860)
- 高さ約2メートル



踊る田の神



「田の神戻し」田の神さあのお引越しを神の化身が行う。■ 祁答院地域で毎年4月10日実施

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックをご紹介します。

【参考文献】「川内の田の神」

双体丸彫



- 網津町井上 開聞神社付近 天保11年(1840)

磨崖型双体浮彫



- 寄田町山之口 年代不明
- ※磨崖型の田の神は県内でも数少なく、大変珍しいタイプです。

■ 文責・問合せ 社会教育課 文化財G(中央公民館内) (22)7251

「てらやまんち」に行ってみない？

問合先／少年自然の家
☎(29)2114



▲少年自然の家 地図

◎「少年自然の家」どんなところ？

「てらやまんち」の愛称で親しまれている少年自然の家は、標高230メートルの寺山に位置し、四季折々の花々、野鳥や山野草、昆虫など、豊かな自然に囲まれた環境の中で、さまざまな体験ができる施設です。

◎「どんなことができるの？」

- ▼ てらやまんちでは、各施設を利用した自然観察活動や野外活動、創作活動などたくさんプログラムの用意しています。
- ▼ 自然観察活動Ⅱ自然散策、プラネタリウム鑑賞など
- ▼ 野外活動Ⅱ野外炊飯、自転車モトクロスなど
- ▼ 創作活動Ⅱ藍染め、陶芸、プラホビーなど30種類以上
- ▼ 季節や家族のイベントⅡ子どもの日フェスタ、ファミリー自然体験隊など
- ▼ 大人やシニア向けのイベントⅡ元気はつらつスクール、地域指導者養成講座など

◎誰が利用できるの？

研修を目的とする5人以上の団体（保育園（保育所・認定こども園・地域型保育事業）、幼稚園、学校、PTA、スポーツ少年団、子ども会、部活動、家族、グループ、企業など）であれば、誰でも利用することができます。
※営利目的は不可



▲冬のアドベンチャー「薩摩川内ぼっけもん」の挑戦で82キロメートル完走に向けて自転車走行



▲元気はつらつスクールでピザ作りに挑戦

◎利用申し込みと料金は？

事前に利用希望日と活動内容を相談して使用許可申請書を利用日の20日前までに提出してください。

主な使用料

研修施設	1人1研修	高校生以下 各100円	一般 各150円
宿泊棟	1人1泊		
テント	1人1泊		
野外宿泊施設			
寝具	1人1セット		

※宿泊棟・野外宿泊施設の空調設備(エアコン)は、1時間100円のコインタイマー式です。
※活動に伴う経費(材料代など)については、事前に問い合わせください。

※市内の保育園(保育所、認定こども園、地域型保育事業)、幼稚園の園児、小・中学校の児童・生徒の団体、スポーツ少年団、子ども会などの少年団体については、研修施設使用料などが免除されます。

◎気軽に体験してください

「てらやまんち」は、人との交流の場、家族のふれあいの場、生きがいづくりの場、豊かな自然を感じて感動する場、子どもたちが困難に挑み、自信を深める場です。一言でいうと「笑顔」になれる場です。
「てらやまんち」でさまざまな体験をしてみませんか。



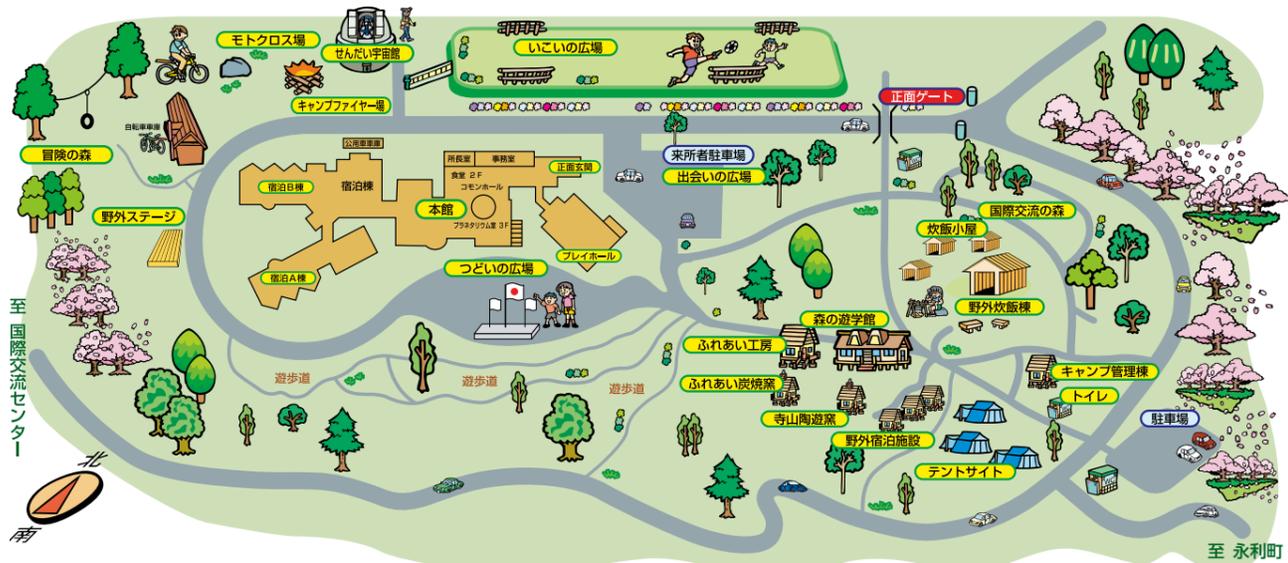
▲オタムフェスタでオリジナルコースターを制作し、大満足の笑みを見せる子どもたち

野外活動施設

- 野外活動施設／キャンプファイヤー場、自転車モトクロス、チームワークゲーム、冒険の森 など

野外炊飯・その他施設

- 野外炊飯施設／炊飯小屋、野外炊飯棟、ピザ窯 など
- その他の施設／森の遊学館（研修室2室）、ふれあい工房、寺山陶遊窯、ふれあい炭焼窯 など



キャンプ・野外宿泊施設

- キャンプ施設／テントサイト38基
- 野外宿泊施設／バンガロー3棟

本館・プレイホール・宿泊棟

- 本館／集会室、研修和室、視聴覚室、工作室、食堂、プラネタリウム室 など
- プレイホール／体育館（バレーコート・バスケットコート1面、バドミントンコート2面）
- 宿泊棟／2棟（定員248人）

◎利用者の声

【宿泊学習で利用 30代教師】

1泊2日という限られた時間の中、生徒たちと非日常の体験をさせていただき、とても充実した2日間を過ごすことができました。

【元気はつらつスクールに参加 60代】

知人の声掛けで参加しましたが、講話を聞いたり、ピザ作りをしたりと、とても楽しい時間を過ごしました。また、和気あいあいとしたわいわいの会話を他の参加者とできたこともうれしかったです。

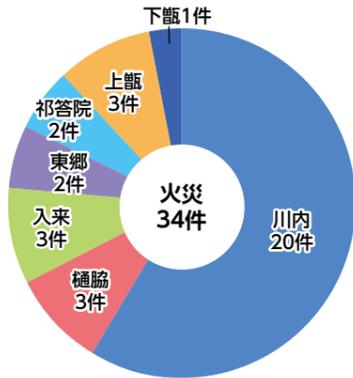


▲少年自然の家 ホームページ

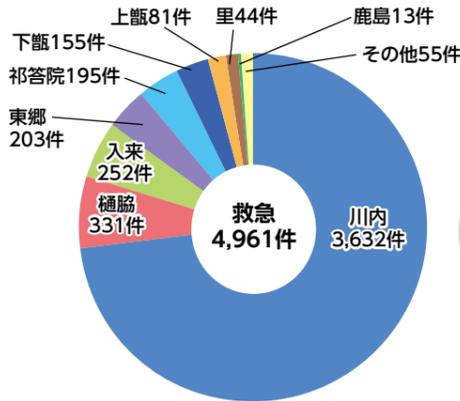


地域別
令和5年

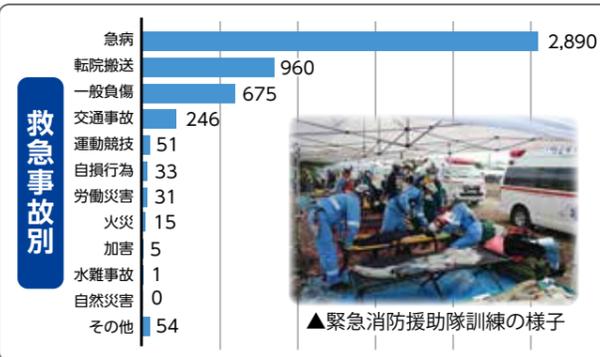
火災・救急統計



前年比
7件減



前年比
294件増



火災は令和4年より7件減の34件で、おおよそ10日に1件の割合で発生しました。火災種別は建物火災14件、林野火災2件、船舶火災2件、その他火災16件で、出火原因は上のグラフのとおりとなっており、「たき火」が原因の火災が多くなっています。たき火などの焼却行為は農作業に伴う軽微なものを除き、**原則禁止**されています。また、焼却行為に係る消防署への届出は、火災の煙と間違わないようにするためのもので、焼却について許可す

るものではありません。

救急件数は令和4年より294件増の4,961件でした。1日に約13.5件の割合で発生したことになります。なお、搬送人員は4,342人で、令和4年より199人の増となりました。

大切な命を守るため、救急車の適正利用をお願いします。

消防車の紹介「支援車I型」



支援車I型は平成22年に消防庁から本市に配備された、大規模災害時に支援活動を行うための消防車両です。

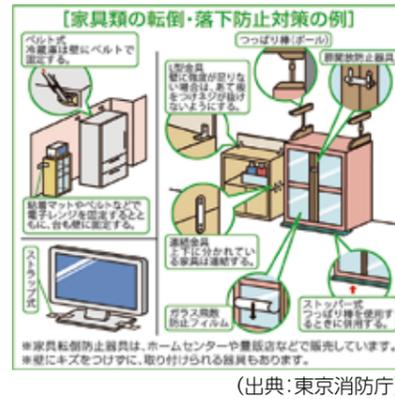
地震災害などの大規模、長期化する災害現場に派遣された消防職員が、食事や睡眠、会議などを行う場を確保することができます。これまでに、東日本大震災や熊本地震などで支援を行いました。活動の際は、車両が拡幅し、車内に大型空間を形成することができる特殊車両です。

複合的に発生する災害
地震による災害は、揺れによる建物などの倒壊だけに留まらない場合が多くあります。本年1月に発生した能登半島地震でも、津波や火災、土砂崩れ、液状化現象など複数の災害が発生しています。

迅速に避難するために
災害時に、けが防止や避難に支障がないよう、家具類の配置を見直し、日頃から高いところに物を置かないよう気を付けましょう。また、家具類の転倒防止のために器具を使用して固定するなど対策をしましょう。



▲令和6年能登半島地震について市ホームページ



▲防災チラシ「災害に備えましょう」

もう一度、みんなで確認を
災害が発生した時に備えて、家族や友人、自治会などで指定避難所の場所とそこまでの経路、外出中に帰宅困難になった場合の安否確認方法や集合場所などをあらかじめ話し合っておきましょう。

また、出水期だけでなく、日頃から防災マップや防災チラシ「災害に備えましょう」を活用して、浸水想定区域や土砂災害警戒区域などについても確認するようにしましょう。

問合せ先／防災安全課
防災安全G(内線4922)



VOL.29
防災トピックス

あらゆる災害を想定して、**みんなで再確認しよう**

このコーナーでは、防災に関する備えや避難時の注意など、日頃から災害に備えるための情報をスポットで発信していきます。

市長と振り返る
薩摩川内市誕生20周年

vol.1

締め切り厳守



問合せ先
本庁秘書広報課
企画総務・広報広聴G
(内線 4122)

今回は、市町村合併の先頭走者として、苦勞しながらも歴史に残ることを任されたやりがいを感じてくれた田中市長。次回は、薩摩川内市への思いや、いよいよスタートする20周年記念事業の見どころなどに迫ります。

同僚たちとの思い出はありますか。
市長 合併業務は、4人でスタートし、最終的には102人の体制になりました。広いフロアに集まって仕事をしていたので、ハンドマイクを使って毎日の朝礼。休む間もない大変なプロジェクトだったけれど、振り返れば充実した楽しい毎日でした。

年10月12日は絶対にずらすことができないので、合言葉は**締め切り厳守**でした。

深ボリ! 企業のチカラ

第63回 有限会社木原商店

今回は、有限会社木原商店を「深ボリ!」。代表取締役社長の本原誠悟さんにお話を伺いました。

事業の概要
昭和24年に、呉服や布団、生活衣料などを中心に取り扱い



▲木原代表取締役社長（後列一番右）と従業員の皆さん

う店舗として「木原源次郎商店」という名前で創業しました。現在は、地元の小・中学校や幼稚園、保育園の制服も取り扱い、約10年前からインターネット販売も行っています。販売方法を増やしたことで、地元だけでなく、全国各地の方に学校用品や衣料の販売を展開しています。



▲店内の様子

商品を添えるなど、お客さまとの交流を大切にしています。また、子どもが小学生のときから利用していたというお客さまから「6年間ありがとうございました」という言葉を頂くこともあり、これからも子育て世代の力になれるように、利用しやすい環境づくりに励んでいきたいと思っています。



▲「きはらだより」の一部

交流を大切に

当社は、「子育て世代を応援する」をモットーにしています。例えば、インターネット販売を利用していただくことで、買い物に行く時間をお子さまとの時間に充ててほしいと考えています。そして、インターネット販売でお互いに顔が見えないからこそ、手書きの情報紙「きはらだより」

今後の抱負

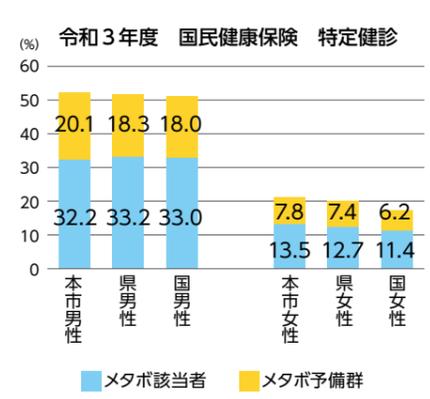
祖父の代からずっと当社を支えてくださる地元東郷地域の魅力をインターネット販売を通して全国の方々に発信していきたいと思っています。また、子ども衣料を中心に取り扱う店だからこそ、地域の子どものたちの見守り役となり、地域へ貢献していきたいと思っています。



シリーズ高血圧⑤ ストップ! 肥満

生活リズムの乱れが影響します

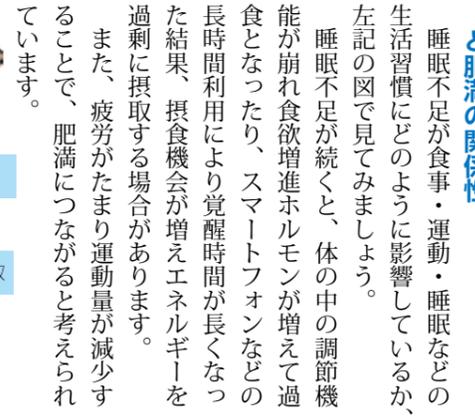
本市では、脳卒中や心臓病の一つである心筋梗塞の死亡率が全国、県と比較して高い現状です。これらの主な原因の一つが「高血圧」です。今回は、「肥満につながる生活リズムの乱れと高血圧」をテーマにお伝えしていきます。



●薩摩川内市は「メタボ」が多い?

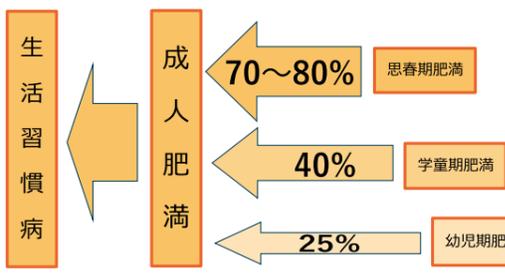
左記の図の通り、本市ではメタボリックシンドロームの該当者が、予備群も含め、令和3年度は男女共に県と比較しても高くなっています。メタボリックシンドロームは内臓脂肪が蓄積している状態で、高血圧をはじめとした生活習慣病に深く関係しています。

●生活リズムの乱れによる睡眠不足と肥満の関係性



●肥満を防ぐには幼少期の生活リズムが大切

幼児期肥満の25%、学童期肥満の40%、思春期肥満の70~80%は成人肥満に移行するといわれています。子どもの肥満は大人の肥満につながっているのです。



幼児期は食事・運動・睡眠などさまざまな生活習慣が形成され身に付く時期です。周りにいる大人の生活習慣が子どもの生活習慣にも大きく影響します。そのため、子どもの日々の生活リズムを整えることが、将来の高血圧を含む生活習慣病を防ぐ重要なポイントになります。

生活リズムを整えるには

< 食事 >

- 1日3食しっかり食べる
- よく噛む習慣をつける
- バランスの良い献立にする
- おやつを食べ方に気を付ける

< 運動 >

- 1日60分以上の身体活動をする

< 睡眠 >

- 早寝早起きをする
- 決まった時間に布団に入り、決まった時間に起きるようにする
- テレビやゲーム、スマートフォンの利用は時間を決める

●親子で生活リズムを整えよう

肥満の予防には生活リズムを整えることが大切です。生活習慣病の予防のため、そして子どもの未来の健康のために家族でできることから取り組んでいきましょう。

日々の生活習慣が高血圧予防につながります。高血圧を予防し、健康な体をつくっていきましょう。

健康について個別で相談を行っています。お気軽にご相談ください。

問合先 / 市民健康課健康増進第1G
(すこやかふれあいプラザ内)
☎(22)8811

有限会社木原商店 - Information -

代表者: 代表取締役社長 木原誠悟
所在地: 東郷町斧淵 307-5
従業員数: 8人
連絡先: ☎(42)0024

Instagram ▶

社員からのメッセージ

障がい者就労支援での業務体験からの縁で、木原商店に勤めるようになり、受注品の伝票作成や商品の出荷作業を担当しています。

苦しい作業に対しては、配慮してもらったり、働きやすい環境だと感じています。配慮してもらっていることを当たり前と思わず、今の業務を正確に遂行し、できる仕事を増やしていきたいと思っています。

入社3年目
すまよしひろ
末吉千弘さん

皆さんの安全のために

1月27日(土)、国際交流センターで、川内原子力発電所に関する国・県・市・事業者の6機関が一堂に会し、「川内原子力発電所に関する市民セミナー」を開催しました。

エネルギー政策や原子力の防災、規制などについて、説明や質疑応答が行われ、市民の皆さんと現状や課題などを共有しました。



スピーチコンテストで優秀賞受賞

2月3日(土)、かごしま県民交流センターで、鹿児島で世界を語ろう！第29回外国人による日本語スピーチコンテストが開催され、本市国際交流員の唐靨さんが優秀賞を受賞しました。

応募者48人の中から予選会を通過し、本選へ上がったのは10人。唐さんもその一人で、「マリオの故郷にやっきた私」をテーマにスピーチを行い、国籍や文化の違いを超えた相互理解や国際交流を深めました。



いざという時のために

2月10日(土)、鹿児島県および関係市町の主催により、令和5年度鹿児島県原子力防災訓練を実施しました。地震により川内原子力発電所が停止し、外部電源を喪失した場合の想定で行われ、210機関、約4,000人規模での訓練となりました。また1月の能登半島地震を受け、避難対象地区における家屋倒壊を想定した救助訓練なども実施し、いつ起こるか分からない災害対応への意識向上と実践すべき行動などを再確認しました。



子どもたちの健やかな成長を願って

2月2日(金)、亀山幼稚園で、節分の豆まきを行いました。

子どもたちは、自作の鬼のお面をかぶり、朝寝坊などやっつけたい鬼をそれぞれ発表しました。

その後、登場した鬼たちに驚きながらも「鬼は外！福は内！」と豆まきを楽しみました。



産業人材確保のために 合同企業説明会を本市で初開催

2月7日(水)、サンアリーナせんだいで、阿久根市、出水市、さつま町、長島町の企業を含めた72社が一堂に会した薩摩国合同企業説明会を本市で初めて開催しました。

市内外から多くの高校生も参加し、生徒たちは真剣な眼差しで、各企業の熱心な説明に耳を傾けていました。



「心」豊かな学習社会を目指して

2月11日(日)、サンアリーナせんだいで、生涯学習フェスティバルを開催しました。

県出身の迫田さおり氏や大空幸星氏による講演の他、市内の団体による舞台発表や作品展示、各地区コミュニティ協議会が野菜や特産品などの販売を行い、会場は多くの人で賑わいました。



てらやまんちで楽しみました

1月19日(金)、市比野小学校で、出張星空観望会を開催しました。

65人が参加し、月と木星が大接近している様子を望遠鏡で観望しました。その後、せんだい宇宙館の職員から、うるう年に関する講話やてらやまんち劇団によるふたご座の神話劇も行われ、冬の星座を楽しみました。



2月4日(日)、少年自然の家で、てらやまんちフェスタを開催しました。

約400人の来場者は、スライムやミニサンドボトルなどの創作活動や竹ボイラーで作られた足湯体験、特別企画の福を呼ぶ豆まき大会や消防車両展示などを楽しみました。会場は来場者の皆さんの笑顔でいっぱいでした。



1月26日(金)、少年自然の家で、森の学校(陶芸)を開催しました。

講師に瀬戸口多美子氏を招き、参加者18人がそれぞれデザインの違うオリジナルの茶香炉の制作を楽しみました。これらの作品は、3月に焼きあがる予定で、参加者は「完成が楽しみです」と待ちわびている様子です。



「せーの！」で息を合わせて

1月21日(日)、サンアリーナせんだいで、第19回地区コミュニティ対抗綱引競技大会を開催しました。男子は里地区コミュニティ協議会が7連覇、女子は平佐西地区コミュニティ協議会が3連覇し、白熱した試合を繰り広げました。第20回大会からは男女混合の部も追加される予定で、初代優勝はどの地区になるか、今から開催が楽しみです。



2つの全国大会で優勝

1月26日(金)、バドミントンクラブチームRKRの下永田晟旺選手が市長を表敬訪問しました。

8月に行われた第24回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会の3・4年生男子の部シングルスと、12月に行われた第32回全国小学生バドミントン選手権大会4年生以下男子シングルスでの優勝を報告しました。

下永田選手は、2024年ジュニアナショナルチーム(U13)の選手に内定しており、「将来は全英オープンとオリンピックでの優勝が目標です」と意気込みを語りました。



留学生と郷土菓子作り

1月27日(土)、南瀬地区コミュニティセンターで、イタックス南瀬トレーニングスクールに通うインドネシアの留学生13人が地域の方と一緒に、初午団子を作りました。

みんなで試食も行き、参加した留学生は「自分で作った団子はとてもおいしい」と日本の昔ながらの味を楽しんでいました。



【情報提供：南瀬地区コミュニティ協議会】

「まちの話題」は、市民の皆さんから情報提供いただき、身近な話題を掲載しています。ぜひ投稿ください。